

2023年3月27日
株式会社三菱UFJ銀行

豊田合成株式会社で「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 ^{はんざわ じゅんいち} 半沢 淳一、以下「当行」）は、お客さまの ESG（環境・社会・ガバナンス）の取り組みを支援・サポートする「ポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、「本商品」）」を提供しております。

本商品は、「持続可能な開発の3つの側面（経済、環境、社会）のいずれかにおいて潜在的なマイナスの影響が適切に特定され緩和され、なおかつ少なくともそれらの一つの面でプラスの貢献をもたらす」ことを企図するファイナンスであり、お客さまの事業活動が環境、社会、経済にもたらすインパクトを包括的に評価・モニタリングし、お客さまの ESG 経営を金融面から支援するものです。

本商品のインパクト評価は、当行が三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（以下、「MURC」）と共同で策定した「ポジティブ・インパクト・ファイナンス フレームワーク」（以下、「フレームワーク」）に基づいております。フレームワークには評価にあたっての基準や体制等が規定されており、株式会社日本格付研究所（以下、「JCR」）より、国連環境計画金融イニシアティブによる「ポジティブ・インパクト金融原則」に適合している旨の第三者評価を取得しております。

この度、当行は、豊田合成株式会社に対し「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結いたしました。豊田合成株式会社の事業活動に関連する重要なインパクト領域における評価結果は次の通りです。なお、本評価は、当行と MURC が共同で実施し、フレームワークに基づいた評価である旨を JCR より確認しております。

【本契約の概要】

契約締結日	2023年3月27日
融資金額	総額 100 億円
資金使途	事業資金
貸出人	三菱UFJ銀行

《本件の概要》

豊田合成株式会社の社是「限りない創造 社会への奉仕」は豊田綱領に基づき策定され、その考え方は、「事業活動を通じて環境・社会課題解決に貢献する」サステナビリティの概念と共通しているといえます。豊田合成株式会社は、これからもステークホルダーや社会から信頼され、必要とされる企業であり続けるために、サステナビリティ重要課題と中長期事業計画との統合を図った経営に取り組み、時代の変化に即した、社会の持続的な発展と豊田合成株式会社の持続的な成長を目指しています。

本契約の締結にあたり SDGs（持続可能な開発目標）の目標達成に対しインパクトを与える活動と

して、豊田合成株式会社の事業及び重要課題から以下のテーマを選定しております。

【ポジティブ・インパクトの創出に関する評価】

インパクト領域	活動内容とインパクトの状況
<p><社会> 移動手段</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通死亡事故の低減による安心・安全・快適なモビリティ社会の実現 ・ セーフティシステム製品の提供による移動時安全性の提供 └ 「交通死亡事故の低減による安心・安全・快適なモビリティ社会の実現」への長きにわたる挑戦を通じて、当社のエアバッグ製品は国内トップ、世界トップクラスのシェア(世界4位)にまで成長 └ 1989年の運転席エアバッグの量産から、側面、後席まで様々な製品を開発し、あらゆる角度の衝突から守る360°フルカバーエアバッグを実現。歩行者の保護装置も量産しているほか、予防安全など次世代技術も積極的に開発 └ 全ての人に安心・安全・快適を届けるためのエアバッグ製品の開発・拡販 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護性能強化 ・ シートベルトと組み合わせた衝突安全システム開発 ・ 多様なシミュレーション技術の開発 ・ 新興国(インド・東南アジア等)のエアバッグ普及に向けた生産体制の構築
<p><環境> 気候</p>	<p>事業・販売した製品・サービスによるGHG削減量</p> <ul style="list-style-type: none"> └ BEV(Battery Electric Vehicle:電気自動車)におけるニーズは、普及への最大の課題となっている航続距離延長だけでなく、環境への配慮、車両構造の変化に応じたユーザーの安全確保や快適性が重要であり、豊田合成の持つ技術のポテンシャルは樹脂・ゴムの材料技術と各事業領域の製品技術を掛け合わせることで価値提供の可能性を高めている └ リサイクル率の向上、再生材による新しい価値提供、自然由来素材活用 └ 樹脂化による軽量化、電池周辺の冷却性向上で電費UP
<p><環境> 気候 <社会> エネルギー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水素関連事業により削減されるGHG排出量 ・ 再生可能エネルギー(水素)の提供量 └ 豊田合成は車両用水素タンクを開発完了、2020年から自社工場で量産を開始 └ 1995年より樹脂ライナーを使った天然ガス自動車用のCNGタンクの開発に着手し、2001年には日本初認証を取得。樹脂ライナーを使ったタンクは、従来のアルミライナータンクと比較し、軽量・低コスト化が可能
<p><環境> 廃棄物 <社会> 資源効率・安全性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再生可能性が高い原材料の使用量 ・ 事業・販売した製品・サービスによるリサイクル量・率の増加 └ 自動車のライフサイクル全体を考え、リサイクルしやすい製品や材料の開発・設計、廃材のリサイクル技術の開発を推進
<p><環境> 生物多様性と生態系 サービス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物多様性の保全活動(森林・河川・生息地等) └ TG2050環境チャレンジで掲げた自然共生社会の実現に向けて、2050年までに工場面積に相当する59ヘクタールのみどりを復元するという目標「みどりのノーネットロス」を設定して活動を推進
<p><社会> 雇用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性の活躍促進 └ 性別に関わらず、全従業員が活躍・成長できる状態を実現し、多様性を活かした新たな価値創造へつなげるため、「女性従業員の育成・活躍

	<p>支援」・「上司の意識・行動改革」・「仕事と生活の両立支援」を軸に、取り組みを実施</p> <p>└ 2021 年度女性管理職者数 [単体] : 30 名</p>
<社会> 雇用	<p>・障がい者雇用促進</p> <p>└ 障がい者雇用を社会的責任と捉え、積極的に取り組んでいる。「障がい者雇用推進委員会」にて、採用・配属・管理監督者への教育・職場定着を実施。特に職場定着に重点を置き、定期ケア面談などを通して現状を把握し、困り事を吸い上げ、職場環境改善 3 ヶ年計画を策定し、職場環境に配慮したみんなのトイレなどの設置を計画的に推進</p> <p>└ 障がい者が従事できる仕事を明確化し、計画的に採用・配属を行い、2021 年度時点 (2022 年 3 月 1 日現在) で 127 名の障がい者を雇用し、雇用率は法定雇用率の 2.3%を超える 2.39%に到達</p> <p>└ グループ全体としても、特例子会社の TG ウェルフェア (株) にて、障がい者セミナーの開催など、グループ会社特例の認定を受けたグループ 14 社で、教育の場づくりや情報共有に取り組んでいる</p> <p>└ 2021 年度障がい者雇用 2.78% (国内グループ全体)</p>
<社会> 雇用	<p>・労働安全衛生の向上</p> <p>└ 当社の敷地で働く全ての人が、入社された時の元気な姿で帰宅していただくことが会社の責務であるとの考えから、グローバルで重大災害・重篤な STOP7 災害件数 0 件を目標に掲げ、各種諸施策を推進</p>
<社会> 文化・伝統	<p>・文化・伝統の保全・推進に関する取組</p> <p>・スポーツ振興を通じた従業員と地域の一体感の醸成</p> <p>└ スポーツ振興を通じ、従業員と地域の一体感を醸成し、明るく豊かで活力のある社会の実現を目指し、「ウルフドッグス名古屋」や「豊田合成ブルーファルコン」、「豊田合成スコピオンズ」などを通じて、地域のイベントも開催するなど、地域の方々との交流を通じにぎわいを創出</p>

【ネガティブ・インパクトの緩和・管理に関する評価】

インパクト領域	インパクトの状況と、緩和・管理の状況
<環境> 気候 <社会> エネルギー	<p>【インパクトの状況】</p> <p>・製品・サービスの生産時における GHG の排出</p> <p>└ 2021 年度 Scope1,2 排出量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル : 47.1 万 t-CO2 ・ 単体 : 10.8 万 t-CO2 <p>【緩和・管理の状況】</p> <p>・ TG2050 環境チャレンジで掲げた CO2 排出量のゼロ化を目指し、2025 年度までの活動目標「第 7 次環境取組みプラン」に実行計画を落とし込んで活動。さらに中間の 2030 年度目標として、CO2 排出量を 2013 年度比で 50% 削減することを目標に掲げる</p> <p>・ 材料・部品の調達、製品開発、生産、使用、廃棄段階まで考えたライフサイクル全体で、CO2 排出量の低減活動を推進しており、2021 年 6 月に全社横断のカーボンニュートラル促進プロジェクトを発足させ活動を加速</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーンなエネルギーである太陽光発電、風力発電の設置、グリーン電力の購入など、再生可能エネルギーの拡大を図り、2021年度末時点で導入率はグローバル全電力の5%を超え、2030年度までに20%以上を目指して拡大を推進 └2021年度再生可能エネルギー導入率[グローバル]:6%
<p>＜経済＞ 資源効率・安全性 ＜環境＞ 廃棄物</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品・サービスの生産時における廃棄物の発生 └2021年度廃棄物発生量[単体]:5,517t <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TG2050環境チャレンジで掲げた循環型社会の実現に向けて、排出物量の極小化を目指して、2030年マイルストーンとして目標を設定し、排出抑制・発生源対策、ゴム・樹脂屑のリサイクル、徹底的な分別による廃棄物の低減など資源の有効利用に取り組んでいる └ゴム・樹脂を専門とする高分子メーカーとして、限りある資源を有効活用することで、循環型社会の実現に向け取り組んでいる └製造現場中心の不良・歩留まり対策だけでなく、源流部門である材料技術・生産技術を巻き込んでの排出抑制・リサイクルに取り組み、資源循環の拡大を推進
<p>＜環境＞ 水（利用可能性） 水（質）</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業における水利用・取水・排水 └2021年度売上高当たり取水量[単体]:0.67t/億円 <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TG2050環境チャレンジの水リスクの極小化に向けて、2030年マイルストーンを設定して取り組みを推進 ・実現に向けては、国内外の拠点を水量、水質の両面でリスク評価して、高リスクの拠点の改善を進めており、また、低リスクの拠点においても資源の有効活用のために水の取水量の削減に取り組んでいる └2021年度は、水漏れの改善やリサイクル推進などの削減に取り組む、また、排水処理施設を計画的に更新するなど、よりきれいな排水にするように取り組んでいる
<p>＜環境＞ 土壌 水（質）</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造拠点からの有害物質の排出 <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷物質の管理 └製品含有化学物質の管理を強化するため、国内外の法規制物質、自動車メーカーの自主規制物質に当社独自の規制物質を加えた物質を対象として、管理を実施 └欧州REACH規則、欧州RoHS指令の動向を見据え、規制改正後、速やかに対応できる体制を整備 └生産工程では、塗料や離型剤の水系化、塗装工程のコンパクト化、塗着効率の向上などを行い、PRTR対象物質を低減 └過去に洗浄剤で使用していたトリクロロエチレンなどの有害物質による地下水汚染の監視と浄化に取り組んでいる └観測井戸を各工場に設置し、有害物質や油脂類による土壌・地下水の汚染がないことを定期的に確認

<p><社会> 雇用</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働時間の増加 <ul style="list-style-type: none"> └ 2021 年度平均残業時間：12.3h/月・人 └ 2021 年度年休取得率：97.3% <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークライフバランスの実現として、テレワークや短時間勤務、フレックス制度など、柔軟な働き方により、働きがいを持ち続けながら活躍できる環境づくりを推進 ・仕事と育児・介護・加療との両立支援について、法定以上の制度に加え、お互いを思いやる職場風土の醸成を進め、特に、育児は男性も共に参加するものとして、出生時に改めて実施する制度紹介や社内報啓発などにより、積極的に男性育休の取得を促進。 <ul style="list-style-type: none"> └ 短時間勤務、短日勤務、テレワーク上限回数の緩和などの実施
<p><社会> 保健・衛生</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従業員の健康への影響 <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康経営の拡充を目的に、メンタル / フィジカルヘルス委員会を統合し、2022 年度からは「健幸推進協議会」を発足 ・健康だけではなく、「幸せ」に働くことを目指し、安全健康推進部を事務局に、産業医・人事部・健康保険組合・労働組合が一体となって、健康経営・幸福経営活動の協議を実施 <ul style="list-style-type: none"> └ 健康経営の取り組みや成果を定量的に示し、活動の PDCA を回すことを目的に、「健康投資管理会計ガイドライン」に基づく「戦略マップ」を作成 <ul style="list-style-type: none"> └ 今後、投資・効果・資源を定量的に評価し、健康経営を継続的、効果的に推進していく └ 健康 KPI として「チャレンジ8」を策定し、体重・朝食・飲酒・間食・禁煙・運動・睡眠・ストレスの 8 項目の状況を数値的に評価するもので、2025 年度までの目標値を年度ごとに設定し、推進

上記のネガティブ・インパクト以外では、過去の係争案件については適切に対応され解決しており、2023 年 3 月時点では重大な係争案件は無いことを確認しております。

特定されたポジティブ・インパクトの創出を維持し、ネガティブ・インパクトの抑制を図るため、豊田合成による今後の取組内容、目標、当行がモニタリングを実施する項目（KPI 等）については以下の通りです。

【目標（KPI）】

内容	目標とモニタリング項目（KPI 等）
<p>交通死亡事故の低減による安心・安全・快適なモビリティ社会の実現 セーフティシステム製品の提供による移動時安全性の提供</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊田合成グループ全体でのエアバッグのグローバル生産台数の拡大 <p>【モニタリング項目（KPI 等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エアバッグのグローバル生産台数
<p>再生された土地面積 (森林・河川・生息地等)</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊田合成単体での「みどりの復元面積」

	<p>└ 2030 年「みどりの復元面積」：36ha └ 2050 年「みどりの復元面積」：59ha（ノーネットロス達成）</p> <p>【モニタリング項目（KPI 等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みどりの復元面積
女性の活躍促進	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊田合成単体での女性管理職人数 <p>└ 2025 年度女性管理職人数 40 名</p> <p>【モニタリング項目（KPI 等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性管理職人数
労働安全衛生の向上	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊田合成グループ全体での重大災害・重篤な STOP7 災害件数 <p>└ 毎年 0 件</p> <p>【モニタリング項目（KPI 等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重大災害・重篤な STOP7 災害件数
製品・サービスの生産時における GHG の排出量削減	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2 排出量： 豊田合成グループ全体で、 <p>└ 2025 年度 CO2 排出 25%減（2015 年度比） └ 2030 年 CO2 排出 50%減（2013 年度比） └ 2050 年カーボンニュートラル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再エネ導入量： └ 豊田合成グループ全体で 2030 年度までに 20%以上の導入 └ 豊田合成本体で 2030 年再エネ導入率 50% <p>【モニタリング項目（KPI 等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Scope1、Scope2 排出量 ・再生可能エネルギー導入率
製品・サービスの生産時における廃棄物の発生量削減	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊田合成単体で 2030 年廃棄物量 50%削減（2012 年度比） <p>【モニタリング項目（KPI 等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物発生量
労働時間の抑制	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊田合成単体で 2025 年度平均残業時間：10.0h/月・人 2025 年度年休取得率：90%以上 <p>【モニタリング項目（KPI 等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均残業時間 ・年休取得率
従業員の健康推進	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊田合成単体で毎年ホワイト 500 の維持 <p>【モニタリング項目（KPI 等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイト 500 の認定状況

当行は、特定されたインパクトの創出状況やネガティブ・インパクトの緩和・管理の状況、目標（KPI）の達成状況について、ファイナンス期間にわたり年 1 回モニタリングを実施してまいります。

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以 上